

ふくしま YOUTH VOICE 2026 意見発表会 実施結果

1 日 時

令和8年3月27日（金） 13時00分～15時00分

2 場 所

杉妻会館

3 参加者

高校生12名、県職員6名

4 概 要

- ① これまでのフィールドワークやワークショップで感じた自分たちの「声」をまとめて、「声」にどのような「名前」を付けると多くの人に伝わるか、高校生と県職員が対話をしながら一緒に考える。（フレーミング）
- ② グループごとに「名前」と「声」を発表し、県職員から受け止めを伝える。

5 発表内容

① 学校・教育へのメッセージ 班

【命名】「じぶんロス」

- ・「じぶん」の「じ」には、「自」分だけでなく、「時」間、「事」、「自」由など、いろんなものが、学校・生徒・先生に不足している。
- ・学校では、自分の意見を言いにくい雰囲気がある。
- ・先生も人や時間が足りず、生徒に向き合う余裕がない。

② より良い福島にするために思うこと 班

【命名】「ゆかし精神で迷宮脱出」

- ・「ゆかし」は古語で、心惹かれるなどの意味。
- ・相双地域に実際に行き、現地の状況など初めて知ることが多かった。復興の状況など発信はされているが、自分たち（高校生）に届いていなかったし、自分たちも情報を取りに行こうとしていなかった。
- ・自分たちが福島県で働いて暮らし続けるにも、どのような働き先があるのか、自分たちには情報が届いておらず不安がある。
- ・興味はあるけど、知らない・分からないで立ち止まっている時は、積極的に知っていき、行動に移していくことが大切なのだと学んだ。

③ 地域と「居場所」へのメッセージ 班

【命名】「土地が広くてイイじゃんなのに 居場所なさすぎて滅！」

- ・高校生が少人数でも集まれるような場所が少ない。公共の場所などはお年寄りが優先されているイメージがある。
- ・地域の中で何かやりたいと思っても、学校ではそういう話はしづらいので、同じ考えを持つ若者が集まれる場所が大切。
- ・県内に大学生が少なく、中高生が大学生や大人と交流できる場がない。
- ・場所自体はあり、自然などの魅力もあるが活かし切れていないと思う。

